

総務委員会 県内調査活動状況

- 1 調査日 令和6年6月7日（金）
- 2 出席委員（8名）

委員長	臼井 友基				
副委員長	伊藤 毅				
委員	久保田松幸	水岸富美男	大久保俊雄	古屋 雅夫	
	佐野 弘仁	福井 太一			
- 3 欠席委員（2名）

委員	宮本 秀憲	中村 正仁			
----	-------	-------	--	--	--
- 4 地元議員

午前	向山 憲稔 議員	土橋 亨 議員	菅野 幹子 議員		
午後	望月 大輔 議員	菅野 幹子 議員	飯島 修 議員		
- 5 調査先及び調査内容

（1）【山梨学院中学校・高等学校】

○調査内容（主な質疑）

問) 公立ではできない教育を、山梨学院さんらしい特色を出して、特に、スポーツにおいては、県民に勇気と元気と笑顔を与えていることに改めて敬意と感謝を申し上げる。

1点、違う観点から、公立の場合は給特法の下に職員の勤務の管理がされているが、私学の場合は、労働基準法の範囲と承知している。その中で、これだけ特色ある教育活動をしているが、どのくらいの労働時間なのか、残業はどうか、職員の勤務実態について教えてほしい。

答) 教員なので、基本的には公立の先生と同じような勤務体系で、8時15分から5時5分までが勤務時間になっているが、その中で、中抜けという勤務不要の時間を設定している。しかし、それを超えるものについては、申請を受け、残業手当を支払っている。職員会議等で勤務時間を超える場合もあるが、公立と同じように教職調整額という形で給料の一部として支払っている。一方で、休みの日に教員が来て、使わせてほしいという自主的な活動は妨げない。しかし、勤務として申請がある場合はしっかりと支払いをしている。

問) これだけ充実した設備があって、全県から通学してきていて、朝早くから登校する生徒もいるであろうし、そして、塾等に行かずにパソコンルームを使いながらアーカイブで授業を受けているとなると、先生方の苦勞が想像できる。

問) 私立独特のハイスクールスポーツセンターを設置して15年ということで、学校経営に関して、大学を含めて高校、中学と、今日まですばらしい体制を作ってきたことに本当に敬意を表する。

特に高校では、県外からの生徒が約330名いると聞いているが、スポーツ関係では全国からどのぐらい来るのか。野球を見ると県外出身の選手が多いが、すぐれた人材を集める体制、あるいはスポーツを振興するための教育体制について、山梨学院の学校経営、スポーツ教育を推進する上でどのような努力をしているのか。どのような体制になっているのか。その辺を詳しく教えてほしい。

答) スポーツに関しては、スポーツ指導者を頼って集まってくる。例えば横森先生が1つの例で、全国上位を率いていた名将がいると、それを頼りに全国に散らばっている教え子をたちのネットワークを通じて生徒が集まる。つまり、名将を集めることが大切で、それによって良い選手が獲得できる。また、もう一つの理由として、目標を県優勝ではなく、全国優勝にしていることがある。そうすると、例えば野球では、全国にあるシニアのチームと連携を図ったり、あるいはサッカーでも、全国にあるクラブチームと連携を図る中で、山梨学院の説明をして集まってくる。県内だけでなく、全国のクラブチームと連携を図るためのネットワークを作ることを大切にしている。

答) 人数については、現在、寮生が324人いる。県外出身者が283名。やはり、指導者と、先ほど見学した施設、グラウンドと寮が本校を選ぶ要素となっている。また、高校サッカーを例に挙げると、プリンスリーグという大会や、高校1年生のみのルーキーリーグという大会があり、そこで優勝したりすると、そうした成績を見て本校を選んでくれることもある。

問) スポーツ専門の先生、いわゆる教鞭をとりながらスポーツも指導する先生はいるのか。

答) 強化部はAとBに分かれていて、強化Aは、専門に指導する形で、専任、あるいは業務委託として外部コーチなどを依頼し、組み合わせて対応している。強化Bは、担任を持ちながら学校の業務を中心に活動している。ただし、いくつかの部は、業務委託で外部コーチをお願いするなど分業して対応している。

問) 公立の特に中学校では、不登校生徒は年々増えている状況だが、山梨学院さんの不

登校の状況と、不登校の生徒に対する考え方、あるいは取り組んでいることがあれば教えてほしい。

答) 不登校は全国的な問題で、公立も私立も間違いなく増えているとメディア等でも言われているところ。私立でもいろいろな私立があるが、学力重視の難関の中学校で、難関校ゆえの不登校が出てくるケースもあるし、それ以外の学校の場合も、もちろんあって、理由が1つではない複合的なケースが本当に増えている。また、コロナ禍以降というところもあり、そういう意味では、様々なアプローチをしながらケアしていく必要があると強く感じている。

実際のところ、学年によるところがあると思う。私たちを含め、誰でも、ふとした瞬間に糸が切れてしまい、日々、学校に頑張って通っていても、何かのきっかけで、急にもろく崩れてしまうことはある。そうしたとき、糸が切れずに保たれている学年は、生徒、教員、みんなで支え合いながら、そのまま、うまくいくケースもある。今、中高一貫ではあるが、昨年度の中学3年生、つまり、現高校1年生は不登校がゼロだった。正直、不登校ゼロの学年はめずらしいと思う。一方で、そういうケースもあれば、学年によっては少し心配な学年もある。

そのようになったときは、担任、学年、保健室、あとはカウンセラーの対応となる。本学のスケールメリットを活かし、大学にカウンセラーが何人かいるので、そこと連携をとりながら、保護者と生徒の様子を見て、そちらを紹介する。公立のカウンセラーでは、月に何回か話ができるという形だが、本校では連携が密にとれるので、必要に応じて支えることができる。明確な数値はないが、不登校から復帰できる生徒は比較的多いと思う。そこを支えられるのが中高一貫というところもある。中高6年間で「最終的にこういうふう成長できればいいよね」という支援や声かけができるので、中学のときに心配だった生徒が、その後、高校に行ってから、驚くほど元気になって登校できるケースもある。そこも本校の特徴かと思う。



※山梨学院中学校・高等学校の視察の後、説明、質疑を行った。

(2) 【山梨県立就業支援センター】

○調査内容（主な質疑）

問) コロナ明けで、業種によっては人手不足で就労者を求める企業は非常に多い中、訓練を受けても最終的に就労に結びつかないと意味がない。障害者の職業訓練や、資料を見ると、能力開発セミナーを大勢の方が受けているようだが、就職率はどうか。

答) 未就職者の入校生における就職率については、大体70%台の中間くらい。障害者については、45%くらい。30人~40人いたら、そのうち15名~18名とかそのくらい。

問) 能力開発セミナーを受けた方の就職率はどうか。

答) 能力開発セミナーは在職者が対象なので、就職率という考えはない。

問) もう1点、資料の3ページに就業相談・就職情報提供・職業紹介とあるが、具体的にどのような団体経由で行うのか、具体的な手法を教えてください。

答) 就業支援センターに相談員を設置し、基本的には今日見ていただく総合事務科の訓練生に、ハローワーク経由で来た求人を、本人の性格と照らし合わせて勧めている。大体、事務系の職業に就くが、中には看護助手になる方もいる。基本的にはハローワークから来たデータをもとに紹介している。

問) ハローワーク経由ということだが、例えば、清掃業務であれば、ビルメンテナンス協会など、そういった業界団体もある。商工会議所や商工会等との連携はとっているのか。

答) 総合実務科の清掃実習を業界の方にやってもらっている。実習をして、途中で退校して勤める方はいる。業界から「就職先としてどうか」という話はないが、実習先に就職する方はいる。



※説明、質疑の後、山梨県立就業支援センターの視察を行った。